

和歌山県の小学校国語における課題を踏まえた授業改善

—全国学力・学習状況調査の結果から—

専門研修課 指導主事 伊藤 義昭
指導主事 小島 慶久
指導主事 辻内 高政

【要旨】 本研究は、平成 19 年度から平成 23 年度までの全国学力・学習状況調査の結果から、和歌山県の小学校国語における課題を明らかにし、その課題を踏まえ授業改善の視点を示した。また、その視点に基づいて、説明文の単元及び授業展開を構想し、授業改善の具体例を示した。

【キーワード】 全国学力・学習状況調査、B 問題、和歌山県の小学校国語の課題、授業改善の視点

1 はじめに

全国学力・学習状況調査は、平成 19 年度から、5 回行われている。『平成 19 年度全国学力・学習状況調査 解説資料 小学校国語』には、「調査問題の作成に当たっては、児童生徒に身につけさせたい力として重視されるものについての具体的なメッセージとなるように努めました。」と記述されている。教員にとって、この調査結果により児童生徒の学力を把握・分析し、指導の改善を図ることが重要となる。

本県の小学校国語及び中学校国語の調査では、主として「活用」に関する問題「国語 B」の平均正答率が、全国に比べ、低い状況が続いている。「活用」に関する問題について、『解説資料』には「①知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や②様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容を調査するもの」と記述されている。全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、本県の小学校国語の課題を明らかにし、その解決に向けて実践していくことが急務であると考えた。

2 研究の目的

これまでの全国学力・学習状況調査の結果から、本県の小学校国語の課題を明らかに

するとともに、課題を解決するために授業改善の視点を示し、その視点に基づいた授業改善の具体例を考える。

3 和歌山県の小学校国語の課題

平成 19 年度から 24 年度まで、5 回の全国学力・学習状況調査の結果は表 1 (①～⑤) の通りである。

表 1 (①～⑤) 小学校国語の平均正答率

①平成 19 年度

	和歌山県	全国	差
国語 A	81.1%	81.7%	-0.6 ポイント
国語 B	59.0%	62.0%	-3.0 ポイント

②平成 20 年度

	和歌山県	全国	差
国語 A	64.3%	65.4%	-1.1 ポイント
国語 B	47.4%	50.5%	-3.1 ポイント

③平成 21 年度

	和歌山県	全国	差
国語 A	69.8%	69.9%	-0.1 ポイント
国語 B	48.5%	50.5%	-2.0 ポイント

④平成 22 年度

	和歌山県	全国	差
国語 A	82.5%	83.3%	-0.8 ポイント
国語 B	76.0%	77.8%	-1.8 ポイント

⑤平成 24 年度

	和歌山県	全国	差
国語 A	79.9%	81.6%	-1.7 ポイント
国語 B	51.9%	55.6%	-3.7 ポイント

表 1 (①～⑤) から、和歌山県の小学校国語の 5 回分の平均正答率は、国語 A、国語 B とともに全国を下回っていることがわかる。年度によって違いはあるが、国語 A では本県の平均正答率と全国との差は 1 ポイント前後で大差はない。しかし、国語 B では、その差が 2～3 ポイントと大きくなってしまっており、差が 3 ポイント以上となった年度が 3 回ある。

また、平成 19 年度から 24 年度における国語 B の設問別平均正答率は表 2 (①～⑯) の通りである。

表 2 (①～⑯) 国語 B の設問別平均正答率

平成 19 年度

①[1] 話し合いを計画的に進める
(交流計画の司会)

	和歌山県	全国平均	差
設問一	61.5%	62.9%	-1.4 ポイント
設問二	76.3%	79.0%	-2.7 ポイント

②[2] 新聞記事を書く (環境問題)

	和歌山県	全国平均	差
設問一	58.6%	60.8%	-2.2 ポイント
設問二	44.1%	45.3%	-1.2 ポイント
設問三(1)	44.3%	49.0%	-4.7 ポイント
設問三(2)	72.4%	75.2%	-2.8 ポイント

③[3] 比べて読む (二人の感想文)

	和歌山県	全国平均	差
設問一(1)	49.1%	55.9%	-6.8 ポイント
設問一(2)	49.4%	54.9%	-5.5 ポイント

④[4] 情報を読み取る

(お客様感謝セールのちらし)

	和歌山県	全国平均	差
設問一	61.4%	62.8%	-1.4 ポイント
設問二	76.8%	77.0%	-0.2 ポイント

平成 20 年度

⑤[1] 聴き方を工夫する(先生へのインタビュー)

	和歌山県	全国平均	差
設問一	71.4%	76.5%	-5.1 ポイント
設問二	64.9%	69.4%	-4.5 ポイント

⑥[2] 人物や場面の描写をとらえる

(棕鳩十「母グマ子グマ」)

	和歌山県	全国平均	差
設問一ア	72.7%	72.8%	-0.1 ポイント
設問一イ	51.4%	52.2%	-0.8 ポイント
設問二	46.7%	49.3%	-2.6 ポイント
設問三	41.6%	45.0%	-3.4 ポイント

⑦[3] 情報を読み取って書く (図書館だより)

	和歌山県	全国平均	差
設問一	35.6%	39.2%	-3.6 ポイント
設問二	29.1%	32.8%	-3.7 ポイント
設問三(1)	36.2%	41.3%	-5.1 ポイント
設問三(2)	29.7%	32.4%	-2.7 ポイント

⑧[4] 意見の組み立ての違いをとらえる

(校内のけが)

	和歌山県	全国平均	差
アイウ	57.3%	59.4%	-2.1 ポイント
エオカ	32.7%	35.6%	-2.9 ポイント

平成 21 年度

⑨[1] 調査報告書を書く (小学生の体力)

	和歌山県	全国平均	差
設問一	9.2%	11.4%	-2.2 ポイント
設問二	14.9%	17.7%	-2.8 ポイント

⑩[2] 表をもとに話し合う

(家の中のそうじや整とん)

	和歌山県	全国平均	差
設問一	72.2%	75.5%	-3.3 ポイント
設問二	24.6%	25.7%	-1.1 ポイント

⑪[3] 自分の考えをまとめるために読む

(マナーやルール)

	和歌山県	全国平均	差
設問一	51.8%	56.1%	-4.3 ポイント
設問二(1)	57.6%	62.6%	-5.0 ポイント
設問二(2)	51.4%	50.9%	+0.5 ポイント

⑫④ 図を使って説明する

(バスケットボールの作戦)

	和歌山県	全国平均	差
設問一	61.4%	62.8%	-1.4ポイント
設問二ア	55.6%	57.3%	-1.7ポイント
設問二イ	61.0%	62.0%	-1.0ポイント

平成 22 年度

⑬① 読み手の評価を生かす (学校新聞)

	和歌山県	全国平均	差
ア	93.3%	93.7%	-0.4ポイント
イ	88.9%	89.5%	-0.6ポイント

⑭② 読書発表会をする (つりずきの宇宙人)

	和歌山県	全国平均	差
設問一(1)	71.1%	73.0%	-1.9ポイント
設問一(2)	73.4%	72.9%	+0.5ポイント
設問二	80.3%	82.3%	-2.0ポイント

⑮③ 写真を使って発表する (家の屋根の形)

	和歌山県	全国平均	差
設問一①	79.4%	80.7%	-1.3ポイント
設問一②	75.3%	77.9%	-2.6ポイント
設問二	67.7%	73.0%	-5.3ポイント
設問三	67.9%	69.9%	-2.0ポイント

⑯④ 情報を関係づけて読む (目覚まし時計)

	和歌山県	全国平均	差
設問一	62.9%	65.5%	-2.6ポイント

平成 24 年度

⑰① 依頼の手紙を書く (動物園への訪問)

	和歌山県	全国平均	差
設問一	62.9%	64.8%	-1.9ポイント
設問二	55.2%	55.2%	—
設問三	23.1%	23.5%	-0.4ポイント

⑱② 立場や意図を明確にして話し合う

(中学校の部活動)

	和歌山県	全国平均	差
設問一	83.0%	84.3%	-1.3ポイント
設問二	47.8%	52.6%	-4.8ポイント
設問三	46.7%	52.2%	-5.5ポイント

⑲③ 雑誌を効果的に読む (特集「マラソン」)

	和歌山県	全国平均	差
設問一ア	84.6%	87.3%	-2.7ポイント
設問一イ	41.0%	45.0%	-4.0ポイント
設問二	46.7%	51.0%	-4.3ポイント
設問三	51.8%	57.6%	-5.8ポイント
設問四	31.6%	37.7%	-6.1ポイント

表 2 (①～⑯) から、国語Bで本県の設問別平均正答率が全国を上回ったのは、平成 21 年度の③設問二 (2) の+0.5 ポイントと 22 年度の②設問一 (2) の+0.5 ポイントの 2 問のみである。また、本県の設問別平均正答率が全国と同様であったのは、平成 24 年度の①設問二の 1 問である。それ以外の設問については、本県の設問別平均正答率はすべて全国を下回っている。

そこで、国語Bにおいて、本県の平均正答率と全国との差が 5 ポイント以上で課題があると考えられる設問を、次の 5 つの項目によって、分類し表 3 に示した。

分類項目

- | |
|---------------------|
| ① 実施の年度・設問 |
| ② 本県の設問別平均正答率と全国との差 |
| ③ 設問の趣旨 |
| ④ 評価の観点 |
| ○ (国語への) 関心・意欲・態度 |
| ○話す・聞く能力 |
| ○書く能力 |
| ○読む能力 |
| ○言語についての知識・理解・技能 |
| ⑤ 問題形式 |
| ○選択式 |
| ○短答式 |
| ○記述式 |

表3 国語Bにおいて、本県の平均正答率と全国との差が5ポイント以上の設問

①年度・設問	②全国との差	③設問の趣旨	④評価の観点	⑤問題形式
平成19年度 ③設問一(1) 設問一(1)	-6.8ポイント -5.5ポイント	二つの文章を <u>1比べて読み</u> 、共通する書き方の良さや工夫を <u>3評価</u> し、 <u>2自分の考え方</u> としてまとめる。	読む能力 関心・意欲・態度	記述式
平成20年度 ①設問一	-5.1ポイント	相手や目的に応じた内容や質問する <u>5順序を考えながら</u> 、適切な言葉遣いで聞く	話す・聞く能力 関心・意欲・態度	記述式
平成20年度 ③設問三(1)	-5.1ポイント	目的に応じて必要な <u>1情報を取り出して</u> 、効果的に書く	書く能力 関心・意欲・態度	短答式
平成21年度 ③設問二(1)	-5.0ポイント	目的や意図に応じて、 <u>3自分の考え方をまとめる</u>	読む能力	記述式
平成22年度 ③設問二	-5.3ポイント	目的や意図に応じて、聞き手を <u>5引きつけるように話す</u>	話す・聞く能力 関心・意欲・態度	記述式
平成24年度 ②設問三	-5.5ポイント	司会として話合いの目的を再確認し、 <u>5計画的に話合いを進める</u>	話す・聞く能力 関心・意欲・態度	選択式
平成24年度 ③設問三	-5.8ポイント	目的に応じ、 <u>1記事を結びつけながら読む</u>	読む能力	選択式
平成24年度 ③設問四	-6.1ポイント	<u>1複数の記事を結びつけながら読み</u> 、 <u>4事実を基にして2自分の考え方をもつ</u>	書く能力 関心・意欲・態度	記述式

※下線部の1～5はキーワードを分類した番号

表3から、課題があると考えられる設問は、どの年度にもあり、「言語についての知識・理解・技能」の観点を除いた評価の観点について課題があることがわかる。設問の内訳は「話す・聞く能力」について3問、「書く能力」について2問、「読む能力」について3問、「国語への関心・意欲・態度」について6問となっている。また、問題形式においては、選択式や短答式に比べて記述式の設問が5問と多い。

さらに表3の設問の趣旨について下線を引いたキーワードに注目し、本県の小学校国語の課題を、下記の図1のように整理した。

- 1 情報を比べたり、結びつけたり、取り出したりする力
- 2 感想や意見を整理して提示する力
- 3 評価・批評する力
- 4 根拠を提示し説明する力
- 5 目的に応じて話し合う力
- 6 国語学習への関心・意欲・態度

図1 本県の小学校国語の課題

4 授業改善の視点

課題を解決するためには、授業を改善する必要があり、どのような力をつけるのかを明確にすることが重要である。

前述した1～6の課題に対応するために、教員が授業に対する考え方を変えなけれ

ばならないと考える。例えば、教員による一斉授業では、教員の発問に児童が答え、授業が整然と進み、語句や文の読み取り等、国語の基礎を身につけることができる。

しかし、本県の小学校国語の課題である「根拠を提示しながら説明する力」や「評価や批評をしたりする力」等の育成については、全国学力・学習状況調査の結果から十分に成果が出ているとは言えない。

そこで、本県の小学校国語の課題を解決するための授業改善の視点を図2のように示した。

授業改善の視点（1）～（5）は、平成19年度全国学力・学習状況調査の指導改善資料をもとにしている。今回、平成19～24年度まで5回分の全国学力・学習状況調査の結果を振り返り課題をまとめたが、前述の視点は本研究の課題にも適していると考える。

ただし、本研究では、この視点をもとに国語のすべての授業改善を求めるものではない。1時間の授業の中に、学習したことを活用して自力で課題解決できる展開を盛り込む等、実際には、様々な指導方法を組み合わせることになる。これらの視点に基づいて少しでも授業観が変わっていけばよいと考える。

以下、それぞれの視点について詳しく述べる。

- 1 情報を比べたり、結びつけたり、取り出したりする力
- 2 感想や意見を整理して提示する力
- 3 評価・批評する力
- 4 根拠を提示し説明する力
- 5 目的に応じて話し合う力
- 6 国語学習への関心・意欲・態度

- （1）多様な文字資料の活用
- （2）教材の評価と批判
- （3）読解を根拠とした表現
- （4）推論による表現意図の解釈
- （5）子ども同士の討論等

（平成19年 全国学力・学習状況調査 指導改善資料より）

図2 それぞれの課題に対応する授業改善の視点

(1) 多様な文字資料の活用

教科書の教材だけを教えるのではなく、教科書を中心としながら、他の文章を使ったり、いろいろな図や絵、グラフ等の非連続テキストの情報を読み取ったりする力に関連する視点である。また、授業では、児童の発言や文章、作品も資料として活用する。この視点に関しては、電子黒板等のICT機器を活用することも有効である。

教員は、様々な資料を活用しなければならないため、わかりやすい説明や効果的な発問をする力が求められる。

(2) 教材の評価と批判

評価したり批評したりする力に関連する視点である。国語において重要なことは、教科書の文章を読み取ることだけではない。教材文は絶対ではなく、ときには、その内容を評価したり批評したりすることで理解を深めることができる。

児童に教材文を評価・批判させるために、教員は教材研究を十分行い、深く教材を理解する必要がある。教員には、児童の考えが適切かどうかを判断する力が求められる。

(3) 読解を根拠にした表現

児童が「読解（読み取ったこと）」を根拠に書いたり、話したりする力に関連する視点である。教員は、教材文を細部まで時間をかけて、詳しく読み進めたり、鑑賞したりするだけでなく、教材に基づいて児童が論理的に教材の内容や登場人物の心情を読み取る活動を組み立てる力が求められる。

(4) 推論による表現意図の解釈

憶測ではなく、推論によって、表現の意図を解釈する学習を取り入れることである。これは、評価したり批評したりする力に関連する視点である。児童に用意された解釈を納得させるのではなく、児童が自分なりの推論の材料を見つけ、考える必要がある。

本県では、このような課題に対して無解答が多い。確信がないと解答できない、あるいは、考えを書くこと自体に慣れていないということが考えられる。教員は、前述の（3）「読解を根拠にした表現」及びこの視点によって学習を組み立てる力が求められる。児童に「根拠をあげたり、推論したりすることは難しいことではない」という意識を持たせて「考えてみよう」、「伝えてみよう」という態度を育てることで、国語への関心・意欲・態度の向上につながると考える。

(5) 子ども同士の討論等

本県の小学校国語の課題「根拠を提示し説明する力」や「目的に応じて話し合う力」は、児童が実際に討論したり、主体的に活動したりすることで身につく力である。子ども同士の討論や主体的な活動を成立させるためには、児童から多様な考えを引き出さなければならない。つまり、教員が児童に討論や活動をさせるために行う発問が大きなポイントになると考える。

5 授業改善の視点にそった具体例

4で示した授業改善の視点にそった具体例を以下に示す。

(1) 単元及び教材

光村図書第5学年の「説明のしかたを考えよう」、「理由づけを明確にして説明しよう」の前後する2つの単元を具体例として示す。教材は「天気を予想する」と「グラフや表を引用して書こう」である。

「説明のしかたを考えよう」の単元では、「天気を予想する」の教材を用いて、筆者の考えについて、自分なりの考えを持つことを核に据え、文章の構成や表・写真・図・グラフの効果的な使用、数値を挙げての説明など、説明のしかたについて読み取り、考える学習を行う。

「理由づけを明確にして説明しよう」

の単元では、グラフや表を使って自分の考えを裏づけながら、意見文を書く。

前の単元で読み取った知識を利用して、後の単元では意見文を実際に書く。このように2つの単元の関連を見通して指導計画を立てることで読むことから書くことへ効果的な指導が可能になると考える。

(2) 単元を貫く言語活動の設定

「単元を貫く言語活動」とは、児童に単元を通して身につけさせたい能力を考え、その能力を育成するための学習を言語活動として表したものである。

言語活動は、学習指導要領の言語活動

例を参考にして、単元の指導計画に位置づける必要がある。単元を貫く言語活動を設定することで、児童はその単元において構成された学習に取り組むことができると考える。

例えば、表4に示すように単元を貫く言語活動を「暮らしについての意見文を書こう」と設定する。「天気を予想する」において、児童は言語活動を意識し、筆者の文章構成や図表等の効果的な利用について理解していく。また、児童は「意見文を書く」という目的が明らかになり、学習の見通しを持つことができる。

表4 「説明の仕方について考え方」の単元計画

単元を貫く 言語活動	言語活動例				自分の課題について調べ、意見を記述した 文章や活動を報告した文章などを書いたり編 集したりすること。	学習活動	時		
	指導事項								
くらしについての意見文を書こう	天気を予想する	読むこと	ウ	◎ア 身につけさせたい力を明確にする 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。	・本文から、3つの問い合わせとその答えを見つける。 ・文章構成をとらえる。 ・ワークシートをもとに、資料の効果について考える。★(1)	2 3			
		オ		本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。	◎エ 思考や判断を促す発問や指示の具体化 ・図や表、グラフ等が使われた文章の意図や効果について考える。★(2) ・筆者が最後の写真を取り入れることで、読み手に伝えたかったことは何かをまとめる。★(3) ・書きまとめたことを基に、P136の観点に沿って話し合う。★(5)	4 5 6			
	グラフや表を引用して書こう	ア	書くこと	考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。	・「くらしやすさ」と「くらしにくさ」について自分の考えを整理する。 ・テーマにあった統計を探して、自分が書く文章のテーマと資料を決める。	8			
		エ		引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。	・「くらし」についての意見文を書き進める。	9			
		カ		書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。	・書いた文章を互いに読み合い、助言をする。★(5)	10			
◎ウ 言語活動を単元を貫いて位置づける ◎イ 身につけさせたい言語能力を育成できる学習活動(言語活動)を考える	関連する[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]		イ(ウ)言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。		・語と語のまとまりや、接続の仕方について確認する。	6			
	(国語への)関心・意欲・態度に関する評価				・天気予報について、知っていることを話し合う。 ・全文を読み、感想を書き、交流する。 ・学習の課題を知る。	1			
					・教科書のグラフをもとに、「くらし」についての意見文の書き方を理解する。	7			

※★(1)～(5)…指導改善の視点、◎…言語活動設定の留意点

(3) 言語活動設定の留意点

言語活動を設定する際は、次のア～エに留意する必要がある。

ア 身につけさせたい力を明確にする

国語は、教材が多様な価値を持つため、たとえ単元や教材が決定しても、それに伴って児童に身につけさせたい力が明確になるとは限らない教科である。国語で身につけさせたい力は、螺旋的・反復的な学習を通して体得していくものである。そのため、児童の実態に応じて、どのような力をつけるべきか、そのために何を指導していくべきかを明らかにし、それをもとに指導事項を考えなければならない。その際、学習指導要領や年間指導計画等をもとに、各単元でどのような指導事項を取り上げるべきなのかを、あらかじめ設定しておくことが望ましい。

イ 言語活動を構成する

言語活動は、単元のねらいの実現に最適かどうかを考慮し設定されなければならない。また、その単元の指導事項に応じたものでなければならぬため、指導者は言語活動の種類や特徴をある程度把握しておくと設定が容易になる。

次に、言語活動の具体的な内容を各時間のねらいに応じたものにし、指導者自身が実際にやってみることで、その言語活動における児童への指導上の留意点を明らかにすることができる。また、指導者が実際に言語活動を行うことで、児童に学習モデルを示すことができる。

ウ 言語活動を単元全体に位置づける

単元のねらいは、単元全体を通して身につけさせなければならない。ねらいを確実に実現させるためにも、言語活動は単元のどこかに位置づけるのではなく、単元全体を通して設定すべきである。

国語では、適切な言語活動を通して、児童に単元の指導事項を定着させるため「単元を通して身につけさせたい力をつける」という考え方方が大切である。

エ 思考や判断を促す発問や指示の具体化

児童が活発に活動するためには、主体的に学習する意欲を持たせることが重要である。そのため、指導者は学習指導要領第1章総則の第4の2(1)の記述「言語活動の充実は、子どもの思考力・判断力・表現力等を育む観点から具体化していく」に留意しながら、児童の意識を高めるような発問や指示を考える必要がある。

「説明のしかたを考えよう」の単元では、筆者の考えについて自分なりの感想を持つことをねらいとしている。教材文「天気を予想する」から、文章構成や図表、グラフ、写真的効果的な使用、数値をあげての説明等を読み取り、筆者の考えにせまる学習を行う。

次に、「理由つけを明確にして説明しよう」の単元では、前単元での学習を生かし、教材の例文を参考に、くらしについての意見文を書く学習を行う。

これら2つの単元を貫く言語活動として「くらしについての意見文を書こう」を設定し、表4の単元計画を立てた。

(4) 授業展開例

これまでの記述をもとに、授業展開例を示す。まず、単元全体を第1～3次に分けて考え、第1次と第2次で「天気を予想する」の内容を読み取る学習を行う。第3次では、第1次と第2次での学習したことを生かし、「グラフや表を引用して書こう」にある例文をもとに、グラフや表を使って意見文を書く学習を行う。

以下に第1～3次の概要及び第2次と第3次の授業展開例を各1時間示す。

ア 第1次(表4の第1時)

第1次には、天候や天気予報に関する自分の知識や経験を振り返らせることで、それらが自分たちの生活と密着に結び付いていることを実感させ、意欲を喚起する。また、単元の終末で「くらしについての意見文を書く」ことを知らせておき、学習の

見通しを持たせる。

イ 第2次（表4の第2～6時）

教材文「天気を予想する」は、文章中に小さな問い合わせに対する答えがあり、その答えの中から新たな問い合わせが生まれるという繰り返しによって内容が深まっていく構成になっている。

授業展開例として、第3時を図3に示す。本時は授業改善の視点（1）多様な文字資料の活用と（2）教材の評価と批判を取り入れている。

教科書の本文と資料を結びつけ、資料の効果について考えさせるために、児童

に資料がある教材文とない教材文を比べさせ、その違いから資料を取り入れた工夫や効果について気付かせる展開である。

第1の問い合わせ「どうして的中率が高くなつたのか」については、資料がない教材文からもわかるが、写真や図を併せて読むことでより実感を伴った理解ができる。

第2の問い合わせ「天気予報は百パーセント的中するようになるのか」については、グラフと教材文を併せて読まなければ理解させることは難しいと考える。児童には2つの問い合わせを考えさせることで、その効果を理解させる。

単元名 「説明の仕方について考えよう」

教材名 「天気を予想する」 武田康男

【本時の目標】

資料を除いた教材文と教科書の本文との比較や文章構成を確認することで、筆者が自分の考えを伝える工夫として表・グラフ・写真等を使っている工夫や効果について理解することができる。

【本時の展開（3/10時間）】

学習活動	指導上の留意点	具体的評価規準
1. 教科書の本文を音読する。	<ul style="list-style-type: none">教科書の本文を、資料を除いた教材文と比べながら読ませることで、資料を取り入れた工夫や効果について気付かせるようにする。	
2. 第1の問い合わせ「どうして的中率が高くなつたのか」について、表や写真を取り入れることの効果について考える。	<ul style="list-style-type: none">表や写真、天気図と本文を照らし合わせながら読ませることで、的中率が高くなってきた理由について読み取らせる。	<p>★(1) 多様な文字資料の活用</p>
3. 第2の問い合わせ「天気予報は百パーセント的中するようになるのか」について、グラフを取り入れることの効果について考える。	<ul style="list-style-type: none">グラフから読み取ることができるなどをワークシートに書かせる、第2の問い合わせに対する2つの答えを再確認させる、これらを通して、この資料を取り入れた効果について考えさせる。	<p>【読】筆者が自分の考えを伝える工夫として表・グラフ・写真等を使っている工夫や効果を理解している。（発言・ワークシート）</p>
4. 筆者が資料を取り入れた効果について、自分の考えをまとめる。		<p>★(2) 教材の評価と批判</p>

図3 単元「説明の仕方について考えよう」第3時の授業展開例

ウ 第3次（表4の第7～10時）

「グラフや表を引用して書こう」は、「天気を予想する」で学んだことを想起させ、暮らしについての意見文を書かせる教材である。

授業展開例として、第10時を図4に示す。本時は授業改善の視点（2）教材の評価と批判と（5）子ども同士の討論等を取り入れる。

例文をもとに自分の意見を述べるため、

資料の活用や文章構成を理解し、新聞やニュースなどに取り上げられている話題や今と昔の生活を比較させ、子どもたちに考えを持たせる。その後、自分の決めたテーマの資料を集めさせ、意見文を作成させる。第10時では、書いた文章をグループで読み合い、友達の考え方や文章の書き方、資料の使い方について意見や感想を交流させる。

単元名 「説明の仕方について考えよう」

教材名 「グラフや表を引用して書こう」

【本時の目標】

意見文を読み合い、考え方や文章の書き方、資料の扱い方等について意見や感想を交流し、説得力を持たせた意見文の書き方について理解することができる。

【本時の展開（10/10時間）】

学習活動	指導上の留意点	具体的評価規準
1. 意見文を読み合うときのポイントについて考える。	書く観点を振り返り、読む観点に ・自分の立場とその理由 ・資料について ①何の資料か②資料の見方は ③着目点は④読み取って欲しい点	
2. ポイントに沿って読み合い、コメントをワークシートに記入する。 ★(5)子ども同士の討論等	後の交流に生かせるようにする。	★(2)教材の評価と批判 友だちの意見文を読んで、説得力を持たせた意見文の書き方について優れた点や改善点を具体的に指摘している。（ワークシート・発表）
3. コメントをもとに、感想や意見を交流する。	交流させることで、説明の仕方や資料の使い方について考えさせる。	
4. 交流について、感想を発表する。	学習内容を再認識させる。	

図4 単元「説明の仕方について考えよう」第10時の授業展開例

6 おわりに

本研究では、全国学力・学習状況調査の分析をもとに和歌山県の小学校国語の課題を明らかにし、授業改善の視点に基づいて説明文の単元計画及び授業展開例を作成した。本研究の内容が、わずかでも本県教員の授業改善の参考になればと考えている。なお、本研究の来年度の研修講座への活用や物語文に

おける単元計画及び授業展開例の作成については、今後の課題と考えている。

＜参考文献＞

- ・『平成19～22年度全国学力・学習状況調査 解説資料 小学校国語』(2008～2011)
国立教育政策研究所 教育課程センター
- ・『小学校学習指導要領』(2008) 文部科学省
- ・『国語五 銀河』(2012) 光村図書